

埼玉親善大使レポート

出井夕香子

1. 留学先で学んだこと

私は約一年間、イタリア・ミラノ工科大学へ交換留学し、建築設計、建築保存、都市デザインを中心に学びました。

留学を通して最も大きな学びとなったのは、「デザインとは新しいものを一から生み出すことではなく、既に存在する価値や魅力を見出し、それをさらに発展させることである」という考え方です。

建築設計スタジオでは、建築設計、ランドスケープ、構造設計を専門とする複数の教授から異なる視点で講評を受けながら、設計提案を行いました。一つの設計課題に対して異なる専門分野の教授が複数人つく、という授業のスタイルが私にとってはとても新鮮で、一つの視点や意見にしばられずに、自由に設計提案を行うことができました。また、多国籍の学生とのグループワークでは、それぞれ異なる価値観や文化的背景を持つメンバーと議論を重ね、一つの提案へまとめる難しさと面白さを実感しました。

建築保存のスタジオでは、歴史的建築物の調査や保存提案を通して、「Valorization（価値化）」という考え方に触れました。この言葉は、建物を単に保存するのではなく、その歴史や文化的背景を地域社会と共有し、新たな価値を生み出していくことまでを含めて建築保存と考える姿勢のことです。日本の地域づくりにも活かすことができる、重要な視点であると感じました。

さらに、留学後半には、デザイナーのアキッレ・カスティリオーニのスタジオや、ブルーノ・ムナリーの思想を学ぶワークショップを訪れました。そこでは、日常にある何気ないものを丁寧に観察し、その可能性を引き出すことが創造につながるというデザイン思考を学びました。これらの経験は、現在取り組んでいる修士設計にも大きく影響を与えており、地域の歴史や文化、暮らしの積み重ねを設計の出発点とする考え方へとつながっています。



△建築保存スタジオでの現地調査（左）とミラノ工科大学レオナルドキャンパス（右）

2. 親善大使としての活動

埼玉親善大使としては、特別なイベントを企画するだけではなく、大学生活や日常の交流の中で、自然な形で埼玉県の魅力を伝えることを心掛けました。

最も多く活動を行ったのは、建築設計スタジオでのグループワークです。設計スタジオでは長期間にわたり同じメンバーと活動するため、お互いの出身地や文化について話す機会が多くありました。その際、私が埼玉県出身であることを伝え、多くの学生は東京という名前は知っていても、埼玉県についてはほとんど知らない様子でした。

そこで私は、埼玉県は東京から鉄道で短時間でアクセスできることや、首都圏に位置しながら歴史ある街並みや豊かな自然が残る地域であることを積極的に紹介しました。特に、地元である川越については、写真や地図を見せながら説明し、「小江戸」と呼ばれる歴史的な町並みが東京近郊に残されていることを伝えました。近未来的な東京の景観だけでなく、その近くに全く異なる魅力を持つ街が存在することは、多くの友人にとって新鮮だったようで、「日本へ行く機会があれば訪れてみたい」という声も聞くことができました。

また、日本の文化を紹介する話題では、世界的にも人気のあるアニメ『クレヨンしんちゃん』の舞台が埼玉県春日部市であることを紹介しました。作品を知っている学生も多く、春日部という実在の街であることを知ると驚く人もいました。

さらに、日本から持参した熊谷銘菓の五家宝を友人へ配る機会もありました。初めて見る和菓子に興味を示す学生が多く、きな粉の風味や素朴な甘さを楽しんでもらうことができました。お菓子をきっかけに「これはどこの名物なのか」「埼玉県にはほかにどのような特産品があるのか」といった会話が自然に生まれ、地域の食文化を紹介する良い機会となりました。

また、留学後半に友人宅で開かれたホームパーティーでは、日本から持参した狭山茶を振る舞いました。ヨーロッパで販売されている緑茶には砂糖が加えられているものも多いため、最初は無糖の緑茶に驚く人もいましたが、「とても香りが良い」「抹茶とはまた違った味わいで面白い」と興味を持ってもらうことができました。近年ヨーロッパでは抹茶人気が高まっていることもあり、日本茶全般への関心を持つ人も多く、狭山茶の産地や特徴について説明すると熱心に耳を傾けてくれたように思います。

このような活動はいずれも小さな交流ではありましたが、日常生活の中で継続的に埼玉県について話し、実際に地域の特産品や文化に触れてもらうことで、埼玉県をより身近に感じてもらうのではないかと思います。東京や京都といった有名な観光地だけではなく、その周辺地域にも魅力ある街や文化が存在することを伝えることは、埼玉親善大使として意義のある活動であったと感じています。

3. おわりに

今回の留学では、専門分野に関する知識を深めるだけでなく、多様な文化や価値観に触れながら、自分自身の出身地である埼玉県を改めて見つめ直す機会にもなりました。海外で生活する中で、普段は当たり前だと思っていた地域の歴史や文化、食、暮らしが、外国の人々にとっては新鮮で魅力的なものであることを実感しました。

また、埼玉県について紹介する際には、自分自身が地域について理解を深め、相手に分かりやすく伝えることの大切さも学びました。一人ひとりとの対話を通して埼玉県の魅力を伝えることができたことは、自分にとっても大変貴重な経験だったと感じています。

今後は、留学で学んだ建築や都市デザインの知識を地域づくりへ活かすとともに、今回の経験を後輩や地域の方々へ発信し、海外へ挑戦することの魅力や、埼玉県の魅力を広く伝えていきたいと思っています。そして、留学で得た学びと人とのつながりを大切にしながら、地域社会へ継続的に貢献していきたいです。



△ミラノ大聖堂